



馬場 茂監査委員



野口高一監査委員

私たちが決算を
審査しました

決算審査は、決算の正確性の検証を中心に、予算の執行が適正であるか、財務に関する事務が法令に準拠して処理されているかなどに主眼をおき、6月21日から8月6日までの期間に行いました。平成29年度は、深谷市総合振興計画後期基本計画の終了年度であり、計画に掲げる将来都市像を実現するための施策が積極的に実施され、

着実に成果を上げました。しかしながら、今後、地方交付税の減や税収の減少、少子高齢化に伴う社会保障費の増加に加え、老朽化の進む公共施設、上下水道等のインフラの整備・更新など、財政を圧迫する問題は山積しています。こうした財政状況のなか、今後も歳入の増加と歳出の削減に努め、健全な財政運営が図られることを望みます。

深谷グリーンパーク(パティオ)管理運営事業

- Q** 消防用設備交換工事とは。
- A** 消防法による点検で指摘された事項の改修であり、自動火災報知設備の改修、誘導灯交換、スプリンクラー設備改修等である。
- Q** 改修費は、今後もその都度上がってくるのか。
- A** 消火器等は10年で交換ということが決まっているが、他の部分に関しては、点検後、不具合が生じた場合に解消していく。

産業



—主な事業費—

産業拠点	約5億5,772万円
工場等立地促進	約5,218万円
多面的機能支援	約5,086万円
農業施策推進	約4,617万円

(千円単位四捨五入)

道の駅管理事業

- Q** 指定管理者である、ふかや物産観光櫛が初めて赤字になった。市として今後どう関わっていくのか。
- A** 市では、ふかや物産観光櫛に対して、道の駅おかげ及びはなぞの指定管理者として自らの責任と判断によって、道の駅の適正な管理及び住民サービスの向上を図るよう求めている。市の指示や指導が及ぶ範囲としては、事業計画書に基づく施設の適正な管理運営や利用者への安全配慮、市の施策に対する積極的な協力など、指定管理業務に関するものに限られている。物品販売等の収益事業や株式会社の運営については、市の指導監督の範囲外となるが、ふかや物産観光櫛とともにさらに魅力ある道の駅とするために今後とも協力していく。

討論

反対

議案第74号 平成29年度深谷市一般会計 歳入歳出決算認定

以下の3点について指摘し、反対討論とする。
まず、産業拠点推進事業について、大型開発による大企業依存の市政運営を進めるのではなく、農業や中小零細企業こそ支援し、市民一人一人の生活を維持向上させ、地域経済の活性化を図るべきである。

次に、新庁舎整備事業について、市役所の業務や防災拠点については、総合支所や公民館なども活用し、市民サービスの向上と地域の活性化を図るべきである。

最後に、図書館について、成果説明書における図書館資料整備事業の事業概要を見ても、図書館の貸し出しや蔵書はどうなっているのかなど、図書館の状況はまったくわからない。私たちの調査では、市民一人当たりの図書館の貸出件数、蔵書件数共に、県内図書館の平均を下回っている。以上のことから、図書館の窓口業務や図書整理作業の業務委託をやめ正規の職員を配置し、図書館の充実、発展を図るべきである。

清水 修

合併優遇措置としては、有利な起債である合併特別債が活用できる事と、新市移行後10年間は合併前の交付税算定が適用される交付税の上乗せ措置が挙げられます。その上乗せを合併算定替といひ毎年約18億円でした。合併11年目から段階的に縮減されます。

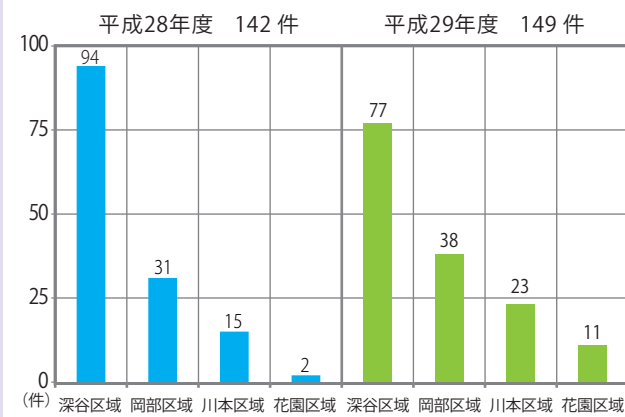
合併優遇ってなに？
合併算定替(上乗せ分)
約18億円
平成28年から
段階的に縮減
(32年で終了)

スマートインターチェンジ整備事業

- Q** 供用開始は当初、平成28年10月を予定していたと思うが、現在平成30年以降という発表がなされている。めどはたっているのか。
- A** 上り線側の一部において用地取得が難航しており、現在めどはたっていない。今後用地取得の見通しが立った時点で工程を精査し、時期の検討を進めていく。
- Q** 下り線が先に供用開始との話も聞こえてくるが。
- A** 上下線一体での開通を目指してきたが、現在、下り線側の工事のみ完成している。下り線先行開始については、関係機関との協議を経て、具体的な供用見通しが立った時点で報告していく。

道路下の漏水修繕実績

○道路側の配水管、給水管の漏水修繕の件数



暮らし・協働

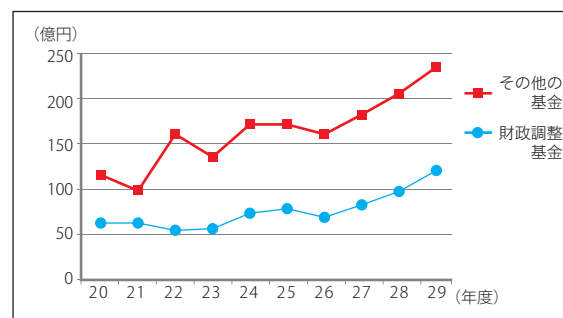
—主な事業費—

清掃センター負担金	約10億4,508万円
道路維持管理	約5億1,746万円
道路新設改良	約4億2,628万円
ごみ収集委託	約4億934万円

(千円単位四捨五入)

道路下の漏水について

- Q** 漏水の主な要因は何か。
- A** 石綿セメント管及び耐用年数を超えた硬質塩化ビニール管が大半を占めており、それら管の老朽化が主な原因である。
- Q** 老朽管の更新事業では、どちらの管を優先しているのか。
- A** 石綿セメント管は地震に弱いことから、優先的に行なっている。合併時には197キロメートルであったが、平成29年度で34キロメートルに減らすことができた。
- Q** 残りの34キロメートルについて、終了の目標年度はあるのか。
- A** 更新は、年間12キロメートルとしており、平成32年度終了を予定している。



深谷市の全基金残高は約230億円で、約半分が財政調整基金です。財政調整基金とは年度間の財政調整機能を持ち、大規模災害の発生や、大幅な税収減などの際、取り崩します。最近では雪害時に約37億円と大きく取り崩し、早急に対策を講じました。

市の蓄えってあるの？
財政調整基金
約118億
414万円
(29年度決算時)